

活動名：第2回福島民報杯岩根大会 U-10の部  
日程：平成26年9月20日（土）～21日（日）  
会場：本宮総合運動公園  
参加：4年生 20名  
帯同：小松コーチ  
報告：小松コーチ  
結果：優勝（5チーム参加）  
○白沢 ○本宮 ○岩根 ○ブリジャン

今回9月の20、21日両日に民報杯岩根大会に参加する機会に恵まれました。  
この大会はアーレ成人の部佐藤先生（八山田で整体をしている先生）にお声をかけて頂き初めて参加する大会です。  
もともとこの地域もアーレ理念同様の登録しないで選手全員が試合に参加して勝ち負けにこだわらない育成と言う地域に根差したスポーツ活動を展開しているところらしく試合に監督コーチがいい意味で深く介入せずのびのびとプレーしていたのがすごく印象的でした。  
なのでよく審判が試合を壊すと聞きますがそんな話とは無縁の世界でした。  
またここでアトラクションとしてお母さんお父さんPK大会にも触れておきます。  
お母さんPK大会は初日開催し運良く準優勝実力通りの戦いでした。素晴らしい！  
お父さんPK大会は2日目に開催し実力があるもののなぜか？何かがカラマワリしてしまい予選敗退となってしまいました。らしくないですよー。  
その後成人の部は新しいユニフォームのお披露目を兼ねて練習試合も開催しました。  
こちらも日頃の練習通り圧勝といきたいところなのですが・・・それに完全アウェイの中急遽助っ人のロッペンこと菅家さんや山崎さんなどが参加して頂き一生懸命にボールを追って親睦を深めてくれました。  
まさしくこれぞアーレの世界観です。それはそれは心地いい時間でした。  
さて私はそこで渡邊コーチから引継ぎ4年生を帯同しました。  
皆さんは空港4年生大会渡邊ブログを拝見しましたか？  
渡邊コーチ的にも要するにスポーツは躰けであると言うことが4年生と言う学年試合活動を通して描かれています。  
もちろんそこは、サッカーです。よりハイレベルな人間性と素直な気持ちを要求するのは当然のこととなります。  
しかし逆にそこはまだ4年生でしかないのです。  
完全なオンとオフも当然必要であり年齢的にこのオフがよりチームとしての結びつきを深めもしかしたらそれは生涯の友情を育む可能性もあるのです。

まだまだ他愛もなく無邪気に触れ合うと言う単純なことさえかけがえのない時間であるのです。

そんな活動をベースとして2日間を戦いました。

試合時間は前後半合わせて40分と言うことでしたが私達クラブは時間に対して圧倒的に選手が多く選手1人1人のパフォーマンスと戦いが戸惑ってしまうところですが選手はできるだけ試合時間にかかわらず自分の試合と向き合いよく戦ってくれました。その結果の優勝と言う勲章を頂けたと言うことです。

少ない時間でも自分の個性をだそうと一生懸命にボールを追って自分の試合をしていました。

ここで大切なのは試合があるそして自分がいるだけではなく自分がいるから試合があると言うこと……。

試合と言う生き物に吞まれ自分を見失いどこで何をすればいいのかわからなくなるのではなく自分が自立し試合をコントロールしけしてどんな時でも自沈ゴール前でさえあきらめず簡単にサイドにボールをアウトせず自分で考えたプレーをやってみようとチャレンジしようとする……言わば最後は必ずどんなときもシュートでおわり逃げずにしかけること……たとえラインから99.9%割ろうとしたボールであってもあきらめず泥だらけでも走って追う選手になろうとすること……。

こんなことを中心に選手には指導しました。

ある選手はキャプテンと言う大役を努めてくれました。彼は人前に出るのがそんな得意な選手ではなくどちらかと言えば苦手それでもキャプテンとしての大役をやってやろう自分を少しでも変えようと取り組んでいました。

そんな努力家もいます。もちろんリフティングは持ち前の努力で結果がでてきてます。

ある選手は持ち前の明るさで1日目キャプテンを期待以上にやってくれました。その選手が2日目キーパーのポジションにつきキーパーの概念を自分で打ち破りフィールドに果敢にアタックをかけ相手ゴールに何度も牙を剥いていました。

ここである選手から「おまえは、キーパーだぞー」の掛け声が入りましたが私はキーパーは相手ゴール前に言って行けないの？と質問したら黙ってしまいました。自分で自分の可能性広げてほしいですね。

規格外のファンタジスタ本当の敵は己なのでしょう。

またある選手はキーパーをやってくれたあとワントップに入りました。どうでしょう？大人でもこのポジションチェンジはかなりの戸惑いがあります。案の定彼はなかなか対応できずにさがってさがってハーフのポジションにのまれ始めています。しかしどうでしょう！対応し始めると大きな波を2度も創り出しその1回はキーパーと交錯あやよくばからだで押し込むと言う離れ技をやったのけました。

しかしそう試合は甘くなく惜しくも得点はなりませんでした。私自身相当くやしかったです。

選手の皮は1番は得点で剥けるのです。

ある選手はきずいてはいるのですが自分はゴールを狙う得点を取るタイプではないと自分の可能性に蓋をしている節がありあまり得点に関する貪欲な気持ちを表に表現しようとはしませんでした。

みなさんどうでしょう？スポーツの1番面白い場面は得点シーンではないでしょうか？

もしそこにボールがあれば1番どこにむかって蹴りたいでしょうか？相手？ゴール？もちろんゴールだと私は思います。

それが試合ならなおさら・・・結果的にからはドリブルから得点を決めてくれました。

これは彼自身が戦った結果だと言うことは言うまでもありませんね。また1つ選手の皮が剥けた瞬間でした。

ある選手は常に何かにびくびくびく自信が表にでません。

自信なんてある方がおかしい思うかもしれませんがやって出来なければ選手もコーチも納得できるでしょう。

自信がないとやろうとしない・・・。チャレンジしようとしなない・・・。

おそろうくは保護者の方が可愛さのあまり何でもかでも先回りして先手を打っていているんだと思います。

どうでしょう選手の可能性信じてもらえませんか？

失敗は成功の元と選手と一緒に経験してより絆深める努力をしてもらえませんか？

試合前こんな光景も目撃しました。選手の試合に行くスパイク紐を一所懸命結んでいらっしやる保護者を・・・。

どうでしょう戦えると思いますか？やらされているのかやっているのかどちらだと思いますか？

私自身すべてにおとなを要求はしておりません。逆に保護者の皆様からご指摘を受けるほど選手の触れ合いの時間は大切にしました。もちろんぎりぎりの注意もしました。

このチームはみんながみんなすごく仲が良くそれは心の底から微笑ましく映ります。

だからこそチームとの関わりを大切にしようオンザピッチオフザピッチめりはりをつける。

そこから学んでほしいと思います。チームで関わるからこそ試合前の移動でベンチを持つ輪がうまれる。休憩所のごみが減る。忘れ物が減る。

ここで・・・

サッカーは子供を大人にし大人を紳士にするという言葉があります。このお言葉の意味と一緒に学びませんか？

このお言葉の先にこそ選手全員の未来が見えています。

と2日間にわたり非常にありがたい勉強をさせてもらいました。試合はある意味の試験テストです。

やってできなければ納得が行きます。どなたかのギャグ？にいつやるの？というフレーズがありますね。

こたえは選手が知っています。応援してあげてください。

保護者の皆様2日間本当にお世話になりました。成人の部の選手の皆様ご参加本当にありがとうございます。

岩根スポ小スタッフの皆様スポンサー様もつき本当に選手のための大会でした。勉強させて頂きました。

最後に空港から引き続きお手伝い貝和さん本当にご苦勞様でした。これからも選手の笑顔の創造のためご協力ください。

ありがとうございました。

小松 大輔



